

# 小品四つ

中勘助

青空文庫



## 秋草

これはもうひと昔もまえの秋のひと夜の思い出である。さっさと風がたつて星が燈し火のように瞬く夜であった。身も世もないほど力を落して帰ろうとするのを美しい人が呼びとめて

「花をきつてさしあげましょう」

といいながら花鋏と手燭をもっておりてきた。そして泳ぐような手つきで繁りあつた秋草をかきわけ、しろじろとみえる頸筋や手くびのあたりに蝗みたいに飛びつく夜露、またほかげにきろきろと光る蜘蛛の巣をよけて右に左に身を靡かせつつひと足ぬきに植込みのなかへはいつてゆくのを、かわつてもつた手燭をさしだして足もとを照しながらかたみに繁みのなかへ溶けてゆく白い踵の跡をふんでゆけば、虫の音ははたと鳴きやみ、草の茎ははねかえつてきてちか人と人を打つ。咲きみだれた秋草の波になかば沈んだ丈高い姿ははるかな星の光とほのめくともし火の影に照されて童女のごとくにみえる。おりおり空から風が吹きおちて火をけそうとすると

「あら」

と大きな目がふりかえってひとしきり缺の音がやむ。驚かされた蛾がは手燭のまわりをきりきりとまわって長い眉まゆをひそめさせる。そんなにして無言のままに紫苑しおんや、虎の尾や、女お道花みなえしや、みだれさいた秋草の花から花へと歩みをうつしてゆくのを、私は胸いっぱいになって、すべての星宿が天の東からでて西にめぐるよりも貴いことに眺めていた。ここにあるいくすじの細いリボンの、白と、黄と、淡紅と、ところどころに青いしみのあるのはそのおりおりにきつて束ねてもらった草の汁である。さりながら私はこのうちのどれがその夜のものであったかをおぼえていない。

## 小箱

ここに今はいない妹の手細工のガラスの小箱がある。六枚のすり硝子ガラスの合せあわめをクリム色のリボンでぴしりとしめあわせたもので、襷飾ひだりがしてある。あんなに美しい指をもちながら兄弟じゅうでの無器用で、常づね私にからかわれて泣き顔をした妹もこればかり

は笑われまいと一所懸命こしらえたものか、たいそう手際よくできている。いつものとおりけなしけなしほめてやったらそれでも嬉しうれそうにちよつと首をかしげたことを思いだす。なかにいれておいたいろいろな貝はいつかいたりまじつてどれが誰のとも見わけられないのはとりかえしのつかぬ寂しい気がするけれど、いずれも私にやさしく親しい指の拾いあつめたものとおもえばなかなか思いなぐさむところもある。

ここなる二ひらの帆立貝ほたてがいのひとつは藤紫ふじむらさきに白をぼかし、放射状にたてた幾十の帆柱は無数の綺麗きれいな鱗りん茸じょうをつらねて、今しも迸りほとばしいでた曙あけぼのの光がいろいろの雲の層さやぎに遮ちやうられたようにみえる。他のものは暗紅に紫黒と海老色えびの帯をまどつて、ところどころ鳥糞ふんにた白い斑はんでん点がついている。これは夕ばえの天の姿である。これらの二つをならべてその蝶ちょうつがいをからだとみれば、それはまた二羽の孔雀くじゃくの競いかに尾羽根をひろげたさまである。美しいかさねをきた子安貝こやすがい、なないろのさざ波のよるとこぶし。巻貝まきがい、笠か貝がい、雲がた貝。月日貝は幸ある子かな。くれないの朝日と、淡黄の夕月と、貴い父ははのかいなに抱かれて南の海に眠るといふ。あわれいみじきこれらのものよ。紅白の珊瑚さんごの林に花とちり実と落ちた貝の殻は、竜の乙女が玉をみがいた踵かかとにふまれて、その足指の白さに、爪のうすべに、髪ひの紫むらさきに、瞳ひとみのみどりに染みてこの麗うるわしい色は得たのであろう。

わたつみの海の千ひろの底にしておのずからわが身にふさえる家もち、ほどよい青の光の国に、あるいは螺鈿らでんの穹窿きゆうりゆうのしたに、またはひとつ柱の迷宮のうちに、心しずかに夢みてすごす海のうからをねたく思う。

## 折紙

私はまたその妹とすごした海岸の夏をわすれたことはない。あの松原のなかで潮風の香をかぎ松をこえてくる海の音をききながら二人して折物をして遊んだとき、円窓のそとはなぎの若木がならんで砂地のうえに涼しい紺色の影を落した。妹はふつくと実のいた長い指に折紙をあちらこちらに畳みながらふくふくした顔をかしげて独り言をいったり、たわいもないことをいいかけたりする。つややかな丸まるまげ鬚すげに結ゆつてうす色の珊瑚の玉をさしていた。桃色の鶴や、浅葱あさぎのふくら雀すずめや、出来たのをひとつひとつ見せてはつづけてゆく。私は妹と向きあつてなんののかのとかまいながらやつと蓮花れんげとだまし舟を折つた。ここにあるひとたばの折紙はなつかしいそのおりの残りである。藍あいや鶺鴒ひわや朽葉くちばなど重かさな

りあつて縞しまになつた縁をみれば女の子のしめる博多はかたの帯を思いだす。そのめざましい鬱金うこんはあの待宵まつよいの花の色、いつぞや妹と植えたらば夜昼の境にまどろむ黄昏たそがれの女神の夢のようにほのぼのと咲いた。この紫は螢ほたるぐさ草、螢が好きな草ゆえに私も好きな草である。私はこんなにして色ばかり見るのが楽しい。じつと見つめていれば瞳のなかへ吸いこまれてゆくような気がする。ようやく筆の持てる頃から絵が好きで、使い残りの紅皿を姉にねだつて口のはたを染めながら皿のふちに青く光る紅を溶とかして虹あぶや蜻蛉とんぼの絵をかいた。そののちやつとの思いで小さな絵具箱を買つてもらい一日部屋に閉じこもつてくさ草紙の絵やなど写したが、なにも写すものもなく描くものも浮んでこないときは皿のうえにそれこれの色をまぜてあらたに生れる色の不思議に眼をみはり、また濃い色を水に落して雲の形、入道にゅうどうの形に沈んでゆくのに眺め入った。さてもこの綺麗きれいな色紙はいつの日かまた妹の指に畳まれて鶴となり、ふくら雀となるであろうか。

あしべ踊おどり

ここに葦あしの葉の模様をついた淡うすたまご卵色らんしきの粗末な小皿がある。これはさる頃の葦あし辺べ踊おどりのときのものでいまだにうす赤く菓子かしのあとがついてるが、私は近頃ながら病床びやうとこにいたあいだこれをなつかしいものにして枕まくらもとにおき、そのおりの旅のみやげの春日かすがの鹿かをならべてあかず眺めていた。皿わのふちにずらりと鼻はなをならべた赤や茶や紺こんじょう青あおやの鹿かの輪りんは葦あし辺べ踊おどりの美しい子たちの姿である。まず私はほどよい行あんどん燈とうのあかりに照された座敷ざしきに人形にんぎょうのように坐まつてた点茶てんちやの太夫たゆうと、この菓子かし皿わを手てにうけて金魚きんぎょみたいに浮ういてきたかわいい子を思おもいだす。それからさつと三方さんぱうにあがる幕まくらと、雨あめのように降りかかる三味線さんまいせんの音ねと、豊ゆたかにまろらかな立たてうた唄うたの声こゑと、両花道りやうかどうからしずしずと鱗ひれをふりながらあらわれ踊おどり子の緋鯉ひこいの列りゆうと……とりわけ鮮あざやかに幻まぼろしに残のこつてるのは、錦にしきえ絵えから飛とんで出でたような囃はやし子この子たちの百羽ひゃくうの銀鳩ぎんぼとが一いっ斉せきに鳴なくように自由に生きいきと声こゑをそろえたほういやのかけ声こゑ、いい姿勢しゆせきに撞しゆもく木きをとつてきりりんきりんと緩ゆるやかにうち鳴ならした鉦かねの音ねである。その囃はやし子このまんやかに太鼓たいこを打うつた花形かみかたの子こは上方風かみかたの柔和わやうな顔かほに梅うめ幸さいに似たうけ口くちぐちをしていた。私はその夜の唄うたをしるしたたとう紙かみを忘れずにもつて帰かへつた。二つ折ふたぢりの紙かみの表うらに銀泥ぎんでいの水みづの地ぢの天あまには桜さくらの花はなを、地ぢには紫むらさきの土つちを染ぞめだして、だらりだらりに結むすんだ舞子まいこの後姿ごうそがついている。その髻たばと襟えりのあいだには白しろい頸筋くびすじ、鬢びんのしたにはふ



つくらした頬がみえて、帯の模様は青柳に燕つばめである。またスペードの2の裏にその夜の踊り子のなかのたてものの写真のついたトランプもある。それはさしかざす絵日傘のかげになまめく顔や顔のなかで子安貝の背に彫つてはめたようなすすしい眼まなざしをした子で、伊い丹幸たごうの□□□□という。

たとえばこの胸の冬の空にたまたま過ぎてゆくこれらの暖い雲の影は常に憂鬱ゆううつな私をしておぼえず寂しくほほえませることがある。孟宗もうそうの枝に寐ねるあの鳩と、私と、どちらがより多くの夢をもつであろうか。

大正二年稿



# 青空文庫情報

底本：「中勘助随筆集」岩波文庫、岩波書店

1985（昭和60）年6月17日第1刷発行

底本の親本：「中勘助全集 第一巻」角川書店

1960（昭和35）年12月5日

初出：「母の死」岩波書店

1935年（昭和10）年4月

※「踵」に対するルビの「かかと」と「きびす」、  
「踊」に対するルビの「おど」と「おどり」の混在は、底本通りです。

入力：呑天

校正：noriko saito

2019年4月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<https://www.aozora.gr.jp/>）で作ら

れました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 小品四つ

## 中勘助

2020年 7月18日 初版

### 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>